



QFN 通信

Qshu Forest Network News
NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 佐藤 宣子(福岡県 福岡市)

春の花が咲き誇る季節を迎え、日に日に暖かくなっていますが、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年は元旦に能登半島地震が発生し、未だ全容がわからず、また復旧活動が遅延しています。自然災害の多発する時代になっていることを印象づけられるとともに、過疎・高齢化が進む地域社会における復興の難しさを感じました。輪島塗などの伝統工芸や能登半島独特の文化が根付く地域の復旧、復興を願っております。

本 QFN 通信では、昨年 11 月に熊本県山江村で実施した第 28 回九州森林フォーラムの報告を掲載しています。新しい森林の活用としてトレイルランなどのスポーツ利用の可能性とともに、熊本県球磨川流域に甚大な被害をもたらした令和豪雨被害を契機に始まっている災害に強い森林づくりについて多くの学びがありました。球磨川トレイルラン大会の主催し、林業にも興味をもった保育士さんの話には感銘を受けました。参加してくださった会員の皆さま、有難うございました。参加できなかった会員の皆さまにおかれましては、概要を記載しておりますので、是非ご一読ください。

また、本通信では、第 12 回目となるプレミアム研修の案内を掲載しています。宮崎県南部における大規模な製材工場の板材生産の取組み、江戸時代から続く肥沃林業地の歴史、子供に人気があり都会で木育施設などを訪問する予定です。木材の魅力や可能性について知ることのできる研修内容となっています。会員限定の研修ですので、回りの若い方へ入会とともに研修への参加をお誘いいただけると幸いです。楽しく、ためになる研修になることを期待しています。

今後ともよろしく願いいたします。

第 33 号 since2005.6.1

発行日 2024.04.05

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部:宮崎県諸塚村

<編集責任>

大分県・上津江オフィス



【目次】

- ・第 28 回九州森林フォーラム
in 熊本県山江村
P.2~P.9
- ・第 12 回 NPO 法人九州森林
ネットワーク会員向けプレミ
アム研修 in 都城・日南
P.10~P.12



第 28 回 九州森林フォーラム in 熊本県山江村レポート

令和 5 年 10 月 28 日(土)、29 日(日)にて、九州森林フォーラムを開催いたしました。

1 日目の現地見学会では、熊本県山江村内に存在する自伐型林業研修林の視察を行い、路網整備現場や伐採現場を見学し、その後、参勤交代の道トレイルランコースを見学しました。

2 日目のフォーラムでは、山村振興や人と森との新たな関係づくりについて考えました。森林政策と、その社会への影響、森林をめぐる多様な価値等について研究している平野悠一郎氏と日本初のプロトレイルランナーである石川弘樹氏をお招きし、林業活動による木材の利用だけではない森との付き合い方について基調講演をお願い致しました。更に、トレイルラングループ チームドラゴン代表の吉田諭祐氏、マルマタ林業株式会社 取締役 合原万貴氏、域内生産森林組合長/株式会社やまえ 取締役 松本佳久氏に事例発表を行って頂きました。その後、森林建築研究所 代表 矢房孝広氏をコーディネーターとして、吉田諭祐氏、合原万貴氏、松本佳久氏の事例発表者 3 名と、基調講演講師として、平野悠一郎氏、石川弘樹氏に参加頂き、「森林をめぐる多様な価値」をテーマとして議論を行いました。なお、フォーラムは対面とオンライン (YouTube 同時配信、チャット参加) で開催を行い、多くの方々のご参加を頂きました。(参加者：フォーラム会場参加 43 名、オンライン参加 25 名、現地見学会参加 34 名)

10 月 28 日(土)：現地見学会

・自伐型林業研修林 見学



受付の様子



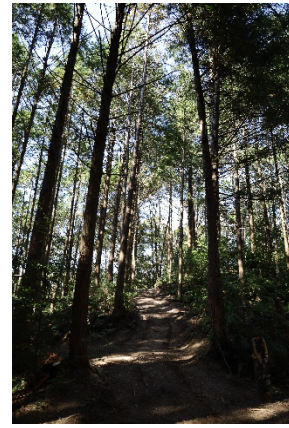
・自伐型林業研修林 路網



自伐型林業研修林(路網)に関する説明を受ける



・ 自伐型林業研修林(伐採)



自伐型林業研修林(伐採)に関する説明を受ける

・ 参勤交代の道トレイルランコースの見学①



・ 参勤交代の道トレイルランコースの見学① と 懇親会の様子



10月29日(日)：フォーラム

基調講演①：国立研究開発法人 森林総合研究所 主任研究員 平野悠一郎氏

・森林でのスポーツ・レジャー活動は訪問体感利用が重要。レクリエーションは気晴らしや休養、スポーツは競技や健康維持。レジャーは余暇活動。森林利用は体験を通じて楽しむことが重要。

・古くからの森林活動は、地域生活の一貫だったが、最近はレジャースポーツに変化してきている。新たな活動としてマウンテンバイクやフォレストアドベンチャーに注目が集まっている。フォレストアドベンチャーは、若者や女性に人気で、新たな層が森林に引き付けられている。また、サバイバルゲームも森林をフィールドにするケースが増えてきている。

・20世紀後半以降の急速な都市化・工業化により森林の訪問体感利用の比重は高まっている。都市部の自然に対する関心の高まりにより、米国を中心にアウトドア産業が発展。米国では野外レクリエーションの関連消費額が、自動車部品部門を上回っており、日本でも、その傾向が強まっている。

・森林でのスポーツ人気の高まりにより、山村や地域も受け入れに積極的になっている。過疎化や担い手不足による地域課題に対し、スポーツで地域活性化を図る取り組みが増加している。トレイルランニング大会は年間300開催、主催は中山間地域の自治体や自治会が多数である。

・ニセコや白馬などは、国内だけでなく、海外からのユーザー訪問客を前提に受入づくりを整備している。
・高齢化社会の進展でスポーツに対する期待が大きくなっている。生活習慣病予防や医療費削減が期待されています。トレイルランニングやマウンテンバイクは健康増進に適し、幅広い年代に人気です。自然と運動を楽しみながら体力維持が可能になります。

・森林訪問体感利用について政策に遅れがありました。2019年から林野庁主導の森林サービス産業政策を始動しました。各ライフステージに対応し、内容は、外部からの訪問体感利用の推進がほとんどとなっています。森林と人の触れ合い機会を提供し、農山村振興に結び付ける設計になっています。森林でのレジャースポーツ発展の可能性は、国内外のニーズあるいは、その地域側のニーズと高齢化に伴うニーズを地域の森林に結びつけることで描くことができます。ただ、そこには課題もあります。

・森林訪問利用の多様化に伴い、新興ユーザーであるマウンテンバイクやトレイルランナーと従来の利用者間で対立があります。地域は事故や環境への影響を懸念しています。しかし、地域と利用者の折衝で解決策も見られます。仲介者が活躍し、新興ユーザーに地域貢献の機会を提供しています。マウンテンバイカーは地域支援を提案し、地域は協力に応じ、行政も認める流れになってきています。

・マウンテンバイカーの地域貢献は、トレイルの整備・再生、イベント共同開催、地域活動へのボランティア支援、そして地域運営への積極的な参加などです。利用ルールを守り共存し、地域との信頼関係を築くことで、地域活性化への貢献を果たしています。地域側もメリットを感じ、受け入れが進んでいます。この取り組みは日本の山村地域に顕著な変化をもたらしています。

・日本におけるスポーツ、レジャーの訪問利用は地域活性化や森林有効活用に大きな可能性を持つが、地域社会の立場やニーズを考慮した調整が必要です。リスク軽減のための制度基盤の構築が課題で、自治体には条例やマスタープランで先行整備を行う事が期待されています。山村地域では森林山道の維持管理基盤が不安定であり、問題解決に向け連携が必要となってきています。



① 開会の挨拶および山江村 村長 内山 慶治 氏 挨拶



② 国立研究開発法人森林総合研究所 主任研究員 平野 悠一郎 氏 講演の様子

基調講演②：日本初プロトレイルランナー 石川 弘樹 氏

- ・日本初のプロトレイルランナーとして、90年代半ばにトレイルランニングにのめり込み、自然の魅力に惹かれました。登山競争からトレイルランニングへの転換を経て、レース運営や普及活動にも携わる。森林や未利用の山を活用し、レースを通じて地域活性化に貢献し、今後もトレイルランニングの魅力と可能性を広めていきます。

- ・トレイルランニングやレースを見たことがない人に、実際の雰囲気映像で紹介。信越五岳トレイルレースの大会を例に、山を駆ける楽しさやレースの雰囲気を伝える。

- ・トレイルランニングとレースの魅力を映像で紹介。信越五岳トレイルレース 160kmの実行委員長としてレースの様子を紹介し、参加者の体験や感動を語りました。トレイルランニング人口の増加や専門ショップの増加も紹介し、地域社会への貢献や交流を示しました。大会開催による地域振興や SNS を通じた地域の魅力発信も重要視されています。

- ・レースでは登山道や林道をコースに利用し、整備にも関わります。痛んだ道の修繕に貢献し、予算や人手不足で対応できない部分を補完します。整備により他の利用人も快適に利用する事ができます。美しい道は他の利用人も呼び込み、地域経済にも貢献します。レースを通じて道の整備や地域振興を促進します。

- ・トレイルランニングの増加に伴い、トレイルの痛みや安全性に課題があります。大会が行われる山へのア

クセスやマナー違反が懸念材料です。公共の登山道では共存が必要となります。運営者はルールやマナーの徹底に努めるべき。安全意識向上やマナー啓蒙が重要です。

・私は国内で10ほどのレース運営に関わり、地域コミュニティの形成やトレイル整備に取り組んでいます。管理者が対応困難な場所もあり、大会を通じてトレイルの整備や保全にも努めています。枕木の設置なども許可を得て行っており、地元との信頼関係を築きながら、安全で魅力的なコースを整備しています。

・南三陸の林道で、2018年の台風で崩落した箇所ランナーが2万本の苗木を植林しました。トレイルランナーは体力を活かし、林業道の整備や災害時の迅速な対応にも参加します。倒木の情報提供や処理、土砂崩れの修復など、地域の復旧に協力しています。

・蜂の増加に対応し、レース前に蜂の巣を整備。スタート時の振動で蜂が出ることも。春に女王蜂のトラップを設置し、秋の巣作りを防ぎます。これによりランナーの刺傷を減らし、他の登山者や林業関係者にも安全を提供しています。

・南三陸町でのトレイルランナーと林業者の連携活動。イヌワシ保護の一例として、山の整備を通じた餌場の再生。防火線整備も猛禽類の生息地に。トレイルランニングを通じて自然と共存、共有を促進。レース活動や普及活動を通じて、自然環境との調和を伝えます。強制せず、自然との関わり方を考えるきっかけを提供しています。



③ 日本初プロトレイルランナー 石川弘樹氏 講演の様子

事例報告



④ 事例報告会の様子 チームドラゴン(トレイルラングループ) 吉田諭祐氏、
マルマタ林業 取締役 合原万貴氏



⑤ 域内生産森林組合長/株式会社やまえ取締役 松本佳久氏

パネルディスカッション



⑥ パネルディスカッションの様子①



⑦ パネルディスカッションの様子①



⑧ パネルディスカッションの様子②と記念撮影

アンケート結果

【フォーラムの感想】

- ・平野さん、石川さんという専門家の貴重な話を聞け、大変勉強になりました。(30 歳代 森林サービス業)
- ・この NPO は当初から山とマチを絡んでいるところが良い。私たちは山側だけで林業の再生は出来ないことを知り、マチの方と一緒に山を再生する途を探るべきである。そのための有益なフォーラムでした。ありがとうございました。何でもフィールドは提供します。研究に作業にご利用ください。(60 歳代以上 林家)
- ・すばらしかったです。昨日会員になれて良かったです。(50 歳代 行政)
- ・石川氏のボランティア道路整備、楽しそうですね。参加者にも主催者にも①使命感 ②達成感 ③目に見える利益 を良く提供出来ていると思います。木道のメンテナンス、すべり止めは大変なのでは？事例の 3 人は面白かったが、人数を減らして深めてみたかった気はします。
- 後半の司会は、矢房氏ともう一人で行うかと思っていました。私がもう一人になるとしたら、私は時間管理とか進行中心、矢房氏は内容を深めるという方向中心で。
- 前半はもう少し時間管理をして、昼休みはゆっくりしたかったです。(60 歳代以上 地域づくり)
- ・森林の新たな価値となる森林サービス産業は地域おこしや活性化につながる良い手段と改めて思いました。山村地域に住む方々のエネルギーを感じました。(50 歳代 行政)
- ・訪問体感利用という切り口はとても参考になりました。山の行政に関わるものとして、今日のお話を参考にしてみたいです。(50 歳代 行政)
- ・トレランや MTB などのレクリエーションが実際どのように行われているか知れて良かった。公的アクセス権など、法的な考え方などこれから色々と活動するときに参考になるので良かった。(40 歳代 一般ユーザー)
- ・1 日目は実際のフィールドを見学し、活動が見ることが出来良かったです。
- 災害にどう備えるか技術や知識だけでなく地域や人の関わりをつなげていくか大切だと感じました。(30 歳代 建築関連)
- ・このフォーラムが長期にわたり継続されてきていることに敬意を表します。
- 政策や仕組みの批判のみではなく、実践者がもっともっと増えていくことを心がけて取り組んでいけたら良いですね。(40 歳代 林家)
- ・自伐林家、森林サービス産業についてまだ不案内だったので参加した大変勉強になった。(自伐型林業、森林サービス産業、災害レジリエンス強化がこれ程にも強く結びつき画あることを知り驚いた。
- 現場で熱心に取り組んでいる人のお話を伺うことは大変勉強になる。(研究者)

・森林サービス業を行おうとすると、各地域で異なるサービスを行うことになるので、今回のフォーラムが1つの事例になると思った。自転車、トレイルラン以外の国内の森林サービス業の事例が知りたいと思いました。(40歳代 木材業)

・森林活用のための新たな切り口だったので良かったと思います。(60歳代以上 林家)

・県発表の「緑の流域治水」が漠然として、何をどうしたいのか、結局ダムがないと治水はできないと言いたいのか釈然としない。そういう中で、具体的な「トレイルランニング」を通して森林(山)と関わることで、山を見つめ直すことがしっかり理解できた。話の中でどんどん関わりが広がっていくのがよく分かった。石川さんありがとう。(60歳代以上 一般ユーザー)

【今後取り上げて欲しいテーマ】

・山とマチの交流について。壊れない道(作業路)づくりについて。丸太材の単価UPについて。(60歳代以上 林家)

・善意に基づく活動であっても、トラブルが起きた場合は対応が必要で、どのような対応をしているか知りたい。(40歳代 一般ユーザー)

・自伐林業、鹿の食害問題(50歳代 建築関連)

・流域から考える地域の森林、その他での技術的な産業や暮らし(30歳代 建築関連)

・森づくり(針広混交林の森づくり)。所有者と携わる人をどうつなぐか。(40歳代 林家)

・スマート林業、移住者促進と定住化(40歳代 木材業)

・ダムをメインとしている県・市の「緑の流域治水」を私たち皆がわかりやすい具体的な行動をいくつも提示して、講演を多く続けていただきたい。高齢者でもできる活動を提案していただきたい。(60歳代以上 一般ユーザー)

第12回 NPO 法人九州森林ネットワーク会員向けプレミアム研修 in 都城・日南

「最新の木材加工技術とその利用」

九州森林ネットワークでは、過去11回に渡りプレミアム研修を行ってきました。

この研修会を通して地域、業種を超えて会員各位の交流を図り、それぞれが抱える問題・課題など様々な意見交換を行っており、九州・沖縄各地での実地に加え、新型コロナの影響下ではオンライン(Zoom)による研修も行いました。

今回は、宮崎県南部に位置する都城市、日南市を主会場にした研修会を以下のとおり開催します。

それぞれの施設の方に解説ご案内頂きながら、皆さんとの交流を深めていきたいと思っておりますので、ご参加よろしくお願ひします。

◆開催日 令和6年5月24日(金)～25日(土) 1泊2日

◆集合場所 宮崎県木材利用技術センター駐車場 (集合:午後1時30分)

* 移動は全て各自の車両となります。(お近くの会員様は乗り合わせてご参加ください。)

アクセス:<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/mokuzai/wurc/senta-syoukai/koutuu/koutuu.html>

◆主な日程

| | | |
|----------------|-------|--|
| 5月24日 (金曜日) | 13:30 | 【集合】 |
| | 13:45 | 【見学①】 宮崎県木材利用技術センター:木材関連産業の加工技術研究センター https://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/kankyo/mokuzai/wurc/ |
| | 15:30 | 【見学②】 外山木材株式会社志布志工場:最新式のコンピュータシステムを導入し、規模においても日本トップクラスの工場 https://toyama-woodsupport.com/ |
| | 17:45 | ・ホテル到着後、懇親会(宿泊ホテル内予定) |
| 5月25日 (土曜日) | 9:00 | 【見学③】 日南市子育て支援センター「ことこと」:木育に取り組む子育て支援センター https://www.city.nichinan.lg.jp/soshikikarasagasu/kodomoka/3/2/966.html |
| | 10:10 | 【見学④】 商家資料館:江戸時代に樹齢200年以上の飢肥杉を使い建てられた、木造一部2階建ての白漆壁の土蔵作り https://www.kankou-nichinan.jp/tourisms/385/ |
| | 11:20 | 【見学⑤】 オビダラリー: 飢肥杉だらけのギャラリー https://miyazaki.fool.jp/blog/?p=25710 |
| | 12:00 | 【解散】 |



宮崎県木材利用技術センター



外山木材株式会社 志布志工場



日南市子育て支援センター「ことこと」

参加費 15,000 円

(1 泊朝食付き宿泊・駐車費、懇親会費、観覧料等)

* 昼食代は参加費に含まれておりません、各自でご負担ください。

* 直前のキャンセルについては、キャンセル料を請求させていただく場合がありますので、ご注意ください。

定員(先着) 20 名

(申込全体の先着順)

宿泊場所 日南第一ホテル

〒887-0014 宮崎県日南市岩崎3丁目3番13号 TEL:0987-23-9111 / FAX:0987-23-6711

<http://www.nichinan-daiichi.jp/>

【参加申込】

NPO 法人九州森林ネットワークではデジタル化を推進しています。お申し込みはメール・FAX による申込も受付ますが、申込フォームのご利用を優先していただくようご協力ください。

【申し込み締め切り】

- ・令和6年5月10日(金)もしくは定員に達した時まで。
- ・フォーム・メール・FAX とともに申込全体の先着順で受付ます。(定員に達しましたらお断りする場合があります。)

●申込フォーム

https://docs.google.com/forms/d/1ymnhnHkMiY_K90qVsFP5WZ4iIPOv6xRjm6eL_Rj88GQ/edit

ご注意(1)右の2次元バーコードからお申し込みできます。→

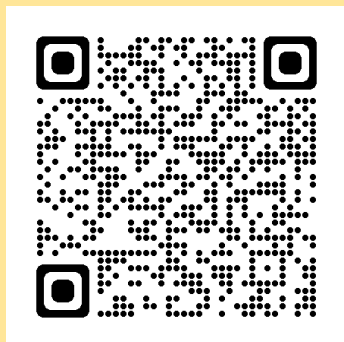
(2)お申し込みはお1人様1回限りです。

(3)NPO 法人九州森林ネットワーク会員でない方は
会員申込・登録後にお申し込みください。↓



NPO 会員申込・登録はこちらから

<https://q-fn.org/membership/>



●メール・FAX でのお申込み(必要事項をご記入後、下記アドレスもしくは FAX あてに送付してください。)

| | |
|-----|--|
| 住 所 | 〒 |
| 氏 名 | |
| 連絡先 | 電話番号 携帯番号 |
| | メール |
| ご所属 | 団体・組織・役職名 (ない場合は“なし”をご記入ください。) |
| 備 考 | (宿泊の喫煙室希望、食事や体調面で特に伝えておく必要がある場合はこちらにご記入ください) |

* 当日連絡が取れるように、携帯番号は必ずご記入下さい。

《連 絡 先》

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代 2683 番地

諸塚村企画課 担当:綾

電話:0982-65-1116

FAX:0982-65-0032

メール:s.aya@morotsuka.jp

携帯番号:090-4993-6913